



道後温泉 空の散歩道

足湯をはじめ、東屋やベンチ、更衣ブースなどの休憩施設、四季折々の花などが楽しめる庭があり、道後温泉本館や道後のまちなみを見下ろす眺望スポット。

■利用時間(足湯):6:00~21:00 ■料/無料

Dōgo Onsen has been loved since ancient times as a healing and revitalizing hot spring. The Dōgo Onsen Honkan, the symbol of this area unchanged since the Meiji Period, will reopen in July 2024 after undergoing conservation and repair work.

傷ついた白鷺も、病に倒れた神様も 今を生きる人もこの湯に癒されて

**白鷺も神様も癒したという
日本最古の湯がここに**

日本最古の湯といわれる道後温泉。その開湯伝説は、一羽の白鷺が湧き出る湯で傷を癒していたことから発見されたとされています。また神話の時代の大国主命と少彦名命の伝説も有名。二神が伊予国に來られた際、病にかかった少彦名命を大国主命が道後の湯で温めたところ、少彦名命はたちまち元氣を取り戻したといわれています。元氣になって大喜びをした少彦名命は石の上で踊り、その足跡を残したとされる「玉の石」は、今も大切に祀られています。飛鳥時代には聖徳太子が来浴され、風光明媚な道後の風情をいたく気に入って、その感動を文章に認めたと言われています。

こうした逸話からも分かるように、道後温泉は古来、癒しの湯、再生の湯として愛されてきました。江戸時代「大ブーム」になった四国遍路では、多くのお遍路さんが旅の疲れを癒すために、道後を目指したとされています。そんな道後温泉のシンボルといえば「道後温泉本館」。この建物再生の立役者となったのが、1890(明治23)年に、初代道後湯之町町長に就任した伊佐庭如矢です。当時、費用などの面から多くの反対を受けながらも、道後の豊かな未来に思いを馳せて老朽化していた本館の改築に尽力。さらに

**お気に入りの湯三昧が
不朽の名作を生み出す**

道後温泉には多くの文人墨客が足を運んでいます。とりわけ有名なのが夏目漱石です。旧制松山中学校の英語教師として赴任した漱石は、しばしば道後の湯に漬かっていました。病氣療養のために帰省していた親友の正岡子規と同居し、日々高浜虚子らも交えて道後に繰り出しては、文学談義をしていたという話はいまにも有名です。そうした体験をもとにしたのでしょうか、小説「坊っちゃん」は道後温泉や明治の松山の風物詩、松山のお国言葉が登場する名作として、いまも変わらず愛されています。

道後温泉本館は、1894(明治27)年に現在の木造三層楼の建物となり、1994(平成6)年には公衆浴場としては初めて国の重要文化財に指定されました。しかし、伊佐庭如矢が遂行した明治の大改築から120年以上が経過し、耐震性などの観点から本館は大規模な保存修理工事が必要となる時期を迎えます。そこで2019(平成31)年から、営業をしながらの保存修理工事が行われ、2024(令和6)年7月11日に全館営業を再開。堂々とした姿を私たちに見せてくれています。

道後温泉 RE:GENERATION

Dogo Onsen

古から変わらぬ
源泉掛け流しで
心と体を再生させる
天下の名湯



道後温泉本館

■住/松山市道後湯之町5-6
■問/089-921-5141
■営/6:00~23:00 ※コースにより異なる
■料/コースにより異なる

■休/12月に1日、休館あり
■P/道後温泉駐車場100台
(入浴者は1時間無料、以降30分100円)